

第八十四回
帝國議會
貴族院

船舶職員法中改正法律案特別委員會會議事速記録第二號

昭和十九年一月二十四日(月曜日)午後一時三十五分開會

○委員長(子爵立花種忠君) 是ヨリ前回ニ引續キマシテ委員會ヲ開キマス、橋本君御繼續ヲ願ヒマス

○橋本辰二郎君 私ハ船價問題ニ關シマシテ質疑ヲ致シタイト思ヒマス、即チ政府ハ中古船ノ價格査定方法ヲ再檢討スルノ意ナキカト云フコトデアリマス、政府ハ或船舶業者ニ對シマシテ、其ノ所有船舶ヲ他ニ譲渡シ、且廢業ヲ強要ナシテ居ルノデアリマス、然ルニモ拘リマセズ、此ノ廢業ニ對シマシテ何等ノ措置モ執ツテ居ラスノデアリマス、サウシテ此ノ時勢ヲモ顧ミズ、讓リ渡シ船舶ノ價格ヲ不當低廉ニ査定ヲ致シテ居リマス、サウシテ其ノ所有船舶業者ヲシテ之ニ盲從セシメムト強壓ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、斯ウ云フコトハ所謂必要ヲ超エタル一種ノ法權濫用デアリマス、所有權侵害デアリマス、政治的ニ考ヘマシレバ、傳來ノ營業ヲ廢スル者ニ對シテハ、其ノ營業權ニ對シテ相當ノ補償ヲ與ヘルノガ當然デアリマス、又殘存商品ノ買上ハ之ヲ時價以上ニ査定スルノガ是亦當然デアアル、即チ支那事變以後ノ整理統合ナルモノハ概ネ此ノ線ニ沿ウテ處理セラレタモノガ多イノデアアル、然ルニ獨リ船舶業者ニ對スル處置ノミガ異例ニ屬スルト云フコトハ、私共ハ其ノ眞意ヲ解スルニ苦シムノデアリマス、聞ク所ニ依リマシレバ、轉廢業者ノ讓渡物件ノ評價ハ、一般的ニハ當業者若シクハ官民合

同ノ公平ナル査定ニ依ルノガ普通デアアルト云フコトデアリマス、然ルニ此ノ船舶ノ讓渡ノ評價ノミガ一事務官ノ獨斷的見解ニ基クモノデアアルト聽キマシタ、誠ニ驚クノ外ハナイノデアリマス、近年官僚獨善ノ聲ノ高イノモ尤モト言ハナケレバナリマセス、而モ此ノ官僚獨善ノ非難ヲ避ケテ査定ノ公正ヲ街ハムガ爲ニ、船舶運營會ニ命ジマシテ、船舶ノ指示價格ヲ制定セシメテ居リマス、此ノ船舶運營會ノ制定スル指示價格ト云フモノハドウ云フモノカ、僅カ一年間ニ四回變更セラレテ居リマス、第一回ハ昭和十八年二月ニ百萬圓ニ評價シタ船ヲ、同年ノ六月ニハ之ヲ九十萬圓ニシ、十月ニハ之ヲ七十萬圓ニ引下ゲ、而モ當年初メ、即チ十九年一月ニハ之ヲ六十萬圓ト順次引下ゲテ居ルノデアリマス、運營會ガ斯ウ云フ自己ノ無定見ヲ天下ニ曝露シテ、只管官僚ニ媚ビムトスルハ、如何ニモ其ノ老獪唾棄ニ値スルノデアリマス、元來戰時下ニ於ケル船舶ノ價格ナルモノハ、戰局ノ進展ニ伴ヒマシテ新シイ古イヲ論ゼズ、突飛ニ暴騰スルノガ普通デアリマス、殊ニ今日ノ如キ決戰態勢ニ入リ、船舶必要ノ愈々急迫スル時ニナリマシテハ、新シイ古イト云フ別ハナイノデアリマス、唯積載量ノミガ評價ノ對象ニナルベキモノデアリマス、サウシテ今ヤ正ニ其ノ時デアアル、即チ今日ハ新シイモノモナク、古イモノモナイ、運搬力ノミガ價格ヲ決定スルモノデアアル、況ヤ或所建

造シテ居リマス「アメリカ」ノ「ヘンリー・カイザー」ノ船ト同様ナル、新シイ船ヨリモ寧ロ三十年モ經過致シマシタル古イ船ノ方ヲ海運界ノ識者ハ却テ之ヲ歡迎スルノデアリマス、新シイトカ、古イトカ云ッテ非常ナル差ヲ付ケルト云フコトガ、今日ニ於テハ非常ナ間違ヒト思フノデアリマス、戰爭ガ勃發致シマシテ其ノ危險ガ愈々切迫スルニ伴ヒマシテ、如何ニ船價ガ騰貴スルト云フ一ツノ例ヲ御示シ致シマス、大東亞戰爭勃發ニ先ダツ一年前デアリマス、即チ昭和十五年ノ十二月ニ輸入セラレタ其ノ船ハ船齡ガ二十二年デ、積載量ガ八千二百「トン」ノ中古船デアリマス、其ノ中古船ノ乗出價格ナルモノハ二百四十萬圓デアリマシタ、處ガ今日ニ於テ船ノ輸入ト云フコトハ絶對不可能デアリマス、強ヒテ同程度ノ船ヲ輸入スルト致シマシタナラバ、其ノ價格ナルモノハ蓋シ想像外デアラウト思フ、而モ此ノ輸入船ナルモノハ、遞信省ノ斡旋ニ係ル當時適正價格ト認メラレタモノデアッタノデアリマス、之ヲ適正價格トシテ輸入ヲ勸メタ所ノ遞信省ハ、今日ニ於テ此ノ船ヲ評價スルナラバ、五百萬圓ト評價スルノハ當然デアアル、何故ナラバ昭和十五年ハマダ大東亞戰爭ノ勃發前デアリマス、今日ハ決戰態勢デアリマス、即チ昭和十五年ト十九年トハ急迫ノ事態ガ違フカラデアリマス、所謂必要ノナイノハ價格ハナイノデアアル、然ルニ今日海務總局ト申シマスカ、私名前ヲ記憶シマセヌガ、海務總局ノ強行セムト欲スル方針ノ下ニ此ノ船ヲ査定シタナラバ、或ハ百萬圓以下ト

評價スルデアラウト思ハレル、斯ウシテ見マスレバ、如何ニ其ノ査定ノ橫暴ニシテ且杜撰ナルコトヲ知ルト思ヒマス、私ハ船價査定ニ關シマシテ政府ガ反省セラレマシテ、當業者ヲシテ納得セシムルヤウナ處置ヲ採ラレムコトヲ要望致シマスルノデアリマス、之ニ關聯致シマシテ、彼ノ戰果ニ依ッテ喪失致シタル船ノ賠償價格ト云フモノモ亦是レ再檢討シナケレバナラヌト私ハ信ジマス、此ノ事ハ運輸通信大臣ヲ通ジマシテ内閣ニ御傳ヘラ御願ヒ致シマスル次第デアリマス、ソレカラ今ノ政府ノ船舶ノ査定ナルモノハ不當ニ低廉デアリマス、低廉デアアルニモ拘ラズ、一昨二十三日ニ日本ノ海運業者ガ、或席ニ集會致シマシタ其ノ席上ニ於テノ一般ノ說ヲ聽キマスルト、今日ノ如キコンナ世界ニ類ノナイ低廉ナル公定備船料ノ下ニ於テハ、如何ナル船ガ如何ニ安クトモ、若シクハ無償デモ、之ヲ運

シタノデアリマス、之ヲ以チマシテモ此ノ不當低廉ナル、備船料ノ安イガ爲ニ如何ニ當業者ガ苦ンデ居ルカト云フコトヲ知ルニ足ルト思フノデアリマス、之ニ付キマシテ大臣ノ御考ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(八田嘉明君) 只今橋本委員ヨリ船舶業者ノ整理統合ニ當リマシテ、特ニ中古船ノ見積價格査定ト云フ問題ニ付テハ、御意見ヲ拜聽致シマシタ、私トシテハ能ク伺ッテ置キマスルガ、御尋ノ價格査定方法ヲ再檢討スル意思ガナイカト云フコトニ

付キマシテハ、御承知ノ通り、現在我が國ノ船舶ノ大部分ハ、戰時海運管理令ニ依リマシテ殆ど悉クガ國家使用ニナツテ居リマスルカ、或ハ陸海軍ノ御用船舶ナツテ居リマスルノデ、御話ノ如ク、萬一事故アリマスル場合ニハ國家ニ於テ之ヲ補償セネバナラス關係上、船舶全體ニ互ニ賠償算定ノ基準ヲ設ケル必要ガアリマスルノデ、曩ニ陸海軍、大藏省並ニ主務省ノ間ニ於キマシテ協議ヲシ、又其ノ際民間各方面ヨリノ意見ヲモ參酌致シマシテ、一定ノ價格査定ノ基準ヲ設ケタノデアリマス、是ハ一應御承知ノ通り決定濟ニナツテ居ルノデアリマス、從ヒマシテ今日此ノ船舶ノ價格ニ付キマシテハ、此ノ定メラレマシタル基準ニ依リマシテ査定ヲ致スト云フコトガ原則ナノデアリマス、而シテ中古船ニ付キマシテハ、勿論其ノ間ノ修繕ノ良否ト云フヤウナコトニ依リマシテ、實際上船舶ノ能力ニ差ガ生ジテ參リマスコトハ當然ノコトデアリマスノデ、其ノ中古船ノ價格査定ニ當リマシテハ、船舶ノ現實ノ狀況ヲ能ク檢討致シマシテ、必要アル場合ニハ適當ナル修正ヲ爲スト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、又現物出資ニ依リマシテ新シク會社ヲ創設スルト云フ場合ニ於キマシテモ、新シク出來マスル會社ガ經營上健全ニ經營ノ出來ルコトヲ限度ト致シマシテ、其ノ點ヲモ考慮シテ、先ニ申シマスル決定致シテ居リマスル基準ニ對シマシテ、必要ナル修正ヲ加ヘテ參シテ居ルヤウナ次第デアリマス、從ヒマシテ之ヲ一言ニシテ申シマスレバ、原則的ニハ、或ハ根本的ニハ、今日日本ノ中古船ノ價格査定基準ニ付テ、特ニ之ヲ再檢討シテ改メルト云フ考ハ持ッテ居ラナイノデ

アリマス、其ノ點ヲ御了承願ヒタイト思ヒマス、尙讓渡、廢業ヲ命ジテ居ルト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、私ノ承知シテ居リマス所デハ、政府ハ船舶業ノ整理統合ヲ命ジテ居リマスルケレドモ、其ノ讓渡、廢業ト云フヤウナコトニ付テハ、政府トシテハ特ニ之ヲ強要シテ居ラヌト云フヤウニ承知致シテ居ルノデアリマスルガ、是等ノ點ニ付キマシテハ、尙少シク詳細ニ互リマシテ、其ノ實情ヲ政府委員ヨリ御答ヘ申上ゲタイト思フノデアリマス、尙御附加ニナリマシタ此ノ船舶ノ査定ニ依ッテ生ズル所ノ賠償ノ場合ニ於ケル價格等ニ付キマシテハ、御意見ノ趣ハ能ク内閣ニ私ヨリモ御趣旨ヲ御傳ヘ致ス考デゴザイマス

○政府委員(新谷實三郎君) 只今ノ大臣カラノ御説明ヲ補足致シマシテ、少シ詳細ニ申上ゲタイト存ジマス、御話ノ中ニ、政府ガ船舶ノ讓渡ヲ強要シ、或ハ船舶業者ノ廢業ヲ強制シテ居ルヤウナ御言葉ガゴザイマシタガ、昨年ノ七月ニ閣議決定セラレマシタ船舶運航體制緊急整備要領ニ依リマシテ、當局ト致シマシテ詳細實施事項ヲ決定致シマシテ公表致シテ居ルノデアリマスガ、ソレニ依リマシテモ、運航實務ヲヤツテ居リマスル船舶會社及ビ運航實務ヲヤリマセヌガ、單ナル船舶ヲ所有致シマスル純船主ノ會社、此ノ雙方ニ付キマシテ整理統合ヲスルヤウニト云フ指示ヲ致シテ居ルノデアリマス、讓渡、廢業等ハ勿論ハ強要致シテ居リマセヌ、申ス迄モアリマセヌガ、戰時中ハ勿論ノコト、戰後工作ヲ考ヘマシテモ、此ノ非常ニ廣イ大東亞ノ水域ニ於ケル海運ト云フモノハ、ドウシテモ我が國ヲ把握シテ行カナケレバナラスノデアリマシテ、其ノ將來

ヲ考ヘマスルト、從來ノヤウニ少數ノ船會社ガ之ヲ擔當スルト云フヤウナ形デハ、到底此ノ大海運ヲ育成シテ行クコトガ困難ナルト考ヘラレルノデアリマス、從ヒマシテ、當局ト致シマシテハ、出來ルナラバ、國民ノ殆ど全體ガ海運ニ對シマシテ何等カノ形ニ於テ關與シ、參畫スルト云フ風ナラバ勢ガ望マシイノデアリマス、出來ルナラバ國民ガ船會社ノ株主ニナルコトモ結構デアリマセウシ、又他ノ方法ニ依ッテ船會社ノ經營ニ參畫シテ行クト云フ風ナコトガ考ヘラレバ、非常ニ結構ダト存ジテ居ルノデアリマス、從ヒマシテ、明治以來長イ間ノ歴史ヲ持ッテ居リマスル日本ノ海運界ニ對シマシテ、是ハ他ノ統制上ノ必要力ヲ統合ヲシテ與レト云フコトハ言ッテ居リマスガ、船會社ヲ廢メテ與レト云フコトハ、只今申上ゲマシタ趣旨ニモ全ク逆行スルコトデアリマスノデ、斯ウ云ツタコトハ申シテ居ラナイノデアリマス、寧ろ各船會社ガモット強クナル爲ニ、一例ヲ申上ゲマスルト、從來一人ガ一杯ヅツノ船ヲ持ッテ居ツタノヲ、今度八十人ノ人ガ寄ツテ十杯ノ船ヲ持ッテ貫ヒタイト云フコトヲ言ッテ居ルノデアリマス、此ノ點ハ若シ誤解ガゴザイマスレバ、誤解ノナイヤウニ御願ヒシタイノデアリマス、ソレカラ船價ノ査定方針ニ於キマシテハ、是ハ大臣カラ御説明ガアリマシタノデ重複スルコトヲ避ケマスルガ、只今申上ゲマシタヤウナ方針デアリマスノデ、船ヲ成ルベク高ク賣ツテ、自分ハ海運界カラ足ヲ洗ツテ逃ゲヨウト云フヤウナ傾向ハ、是ハ嚴ニ戒メタイト考ヘテ居ルノデアリマス、出來レバ現在ノ船會社關係ノ人達ガ、矢張り何カノ形デ統合致シマシテ、サウシテ新

シイ強イ船會社ヲ立テ行クト云フヤウニ指導致シテ居リマス關係上、此ノ統合ノ場合ニ於ケル船價ノ査定ハ、統合スベキ各會社ノ間ノ公平性ガ失ハレナイ限ハ、成ルベク新會社ヲ健全ニ致ス意味ニ於キマシテ、船價ノ査定ハ安イ方ガ宜イノデヤナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、併シナガラサウ云ツタ理想的ナ方法ダケニ依ルコトハ困難デアリマスカラ、場合ニ依リマシテ讓渡等ノ具體的ナ例モ起ッテ參ルノデアリマス、其ノ場合ニ於キマシテハ、大臣カラ御述ベナリマシタヤウナ基準ニ依リマシテ……、詰リ我國ト致シマシテハ、只今公ニ決ッテ居リマスル船價ノ標準ハ、橋本サシノ御指摘ニナリマシタヤウナ、戰時ニ於ケル賠償價格ト申シマスカ、戰爭危險ニ依ッテ喪失致シマシタ船ニ對スル賠償價格ヲ、陸海、大藏等ノ各官廳及ビ之ニ民間ノ經驗者ガ參畫致シマシテ、一ツノ基準ヲ決メテ居ルモノガアルノデアリマスガ、之ヲ基準ニ致シマシテ、具體的ナ場合々々ニ依リ、船舶ノ現狀ヲ考ヘマシテ、船價ノ査定ヲ致シテ居ルノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、船價ノ査定方法ニ關シマシテ色々希望ガゴザイマスガ、是ハ恐ラケハ、此ノ際ニ船ヲ賣ッテ海運界カラ足ヲ洗ハウト云フヤウナ人達ノ聲デハナイカト考ヘラレルノデアリマス、併シ此ノ船價ノ査定ニ付キマシテ、政府ノ意ノ存スル所ヲ十分理解セズニ、色々希望ヤラ意見ヤラガ出ルト云フコトハ、業界ニ面白クナイ影響ヲ與ヘルト考ヘマシテ、先般來日本海運協會トモ能ク相談ヲ致シマシテ、今回海運協會ニ於キマシテハ、具體的ナ船舶ノ價格ヲ査定スルヤウナ一種ノ委員會ノヤウナモノヲ作ッタノデアリマス、其

處ニ船舶運營會及ビ海運總局カラモ關係ノ者ガ列席致シマシテ、能ク當局ノ方針モ述ベ、民間ノ聲モ聽キマシテ、能ク相互ノ認識ヲ深メルヤウニシテハドウカト云フヤウナコトヲ只今實行シツ、アルノデアリマス、ソレカラ最後ニ戰時賠償價格ノ再檢討ニ付テ御話ガアリマシタガ、是ハ單ニ一言御説明スルニ止メマスルガ、是モ昨年來關係省ノ間デ以テ相談ヲ致シマシテ、一應ノモノガ出來タノデアリマスルガ、更ニソレヲ再檢討シヨウト云フノデ、情勢ガ變ル毎ニ是ハ檢討シ直シマシテ、新シイ情勢ニ合フヤウニ修正ヲ致シテ居ルノデアリマス、此ノ點附加ヘテ御説明申上ゲマス

○橋本辰二郎君 只今ノ大臣及政府委員ノ御答辯ニ對シマスル批判ハ討論ノ際ニ讓リマス、唯一言タケ申上ゲテ置キマス、海運業ヲ繼續シテ御國ノ爲ニ盡シタイト思フ者ハ、保險ヲ附ケマスルニセヨ、又之ヲ傭船者ニ於テ保險ヲ附ケル場合ニ致シマシテモ、又喪失ノ場合ニ賠償金ヲ得ル場合ニ致シマシテモ、保險ノ補填又ハ賠償金ニ依ッテ新シキ船ヲ建造スルト云フコトガ趣意デアリマス、然ルニ今日新造船ノ建造費ト云フモノハ非常ニ突飛致シテ居リマス、到底只今ノ行ハレテ居リマスル賠償金ヲ以テ致シマシテハ、新造船ノ建造費ノ何分ノ一ニモ達シナイノデアリマス、斯ウ云フコトデアレバ喪失シタル船ノ代リ船ト云フモノハ到底建造ガ出來ナイヤウナコトニナラウト思フノデアリマシテ、特ニ此ノ點運輸通信省ノ方デ實際ノ事情ヲ能ク御調ベニナリマシテ、相當ナル一ツ御盡力ヲ仰ギタイト思ヒマス、次ノ問題ニ移リマス、第三ト致シマシテ、政府ハ造船禁止命令ニ依リ契約者ノ

被リタル損害ニ對シ、適當ナル措置ヲ執ルノ意ナキカ、政府ハ昭和十七年中ニ二回ニ互リマシテ造船業者ト船舶業者間ニ締結致シマシタ造船契約ノ破棄ヲ命令セラレタノデアリマス、此ノ造船禁止命令ニ依リマシテ注文致シタ者ハ尠カラザル損害ヲ被ッテ居ルノデアリマス、即チ船舶業者ハ注文契約ト同時ニ巨額ノ手附金ヲ支拂ッテ居リマス、又船ノ竣工ノ場合ニ於テ、支拂ニ支障ノナイヤウニ資金ノ調達ノ準備モ致シテ居ルノデアリマス、又船員ノ補充難ノ折柄デアリマスカラ、竣工乗出シニ支障ノナキ爲ニハ、豫メ船員ヲ傭入レテ給料ヲ支拂ツテ居ルノデアリマス、其ノ外竣工後ニ於ケル配船ヤ營業上ノ考又之ニ伴フ所ノ費用等ハ、實ニ並々ナラスモノガアルノデアリマス、殊ニ第一回、即チ昭和十七年一月ニ禁止ヲ命ゼラレタモノヨリモ、第二回、即チ同年十月ニ禁止ヲ受ケマシタル禁止ノ損害ノ方ガ、遙カニ多額ニ上ッテ居リマス、何故カナラバ、一月ノ禁止セラレタ以外ノ契約ト云フモノハ、所謂續行船トシテ遞信省ニ於テ公認セラレ、其ノ建造ガ保障セラレテ居リマシタ形デアリマス、ソレ故ニ契約者ニ於ケル準備モ相當進ンデ居ッテ居リマス、然ルニ十月ニ至リマシテ突然此ノ續行船モ造船禁止ヲ命ゼラレマシテ、契約主ハ啞然トシテ措ク所ヲ知ラザル如キ有様デアッタノデアリマス、サウ致シマシテ其ノ造船ノ禁止ニ因リマシテ意外ノ利益ヲ得タ者ガアリマス、ソレハ即チ造船業者デアリマス、何トナレバ當時造船業者ガ持ッテ居リマシタル新造船ノ契約價額ト云フモノハ、比較的低廉デアッタノデアリマス、造船業者ハソレニ付キマシテ非常ニ惱ンデ居タノデアリ

マス、ソコデ坊間此ノ禁止命令ハ、或ハ造船業者ガ政府ニ泣キ付イタル結果デハナイカト云フ疑フスラ懷ク者モアリマス、此ノ疑ガ決シテ無理デナイト云フコトハ、禁止後新タニ成立致シマシタ所ノ造船契約價額ナルモノハ、禁止前ノ契約面カラ見マスルト、遙カニ高イノデアリマス、是デ廉イ契約ハ破棄シ、而シテ高イ契約ヲ新タニ結ブト云フコトニナッタ事實ガアルノデアリマス、斯ウ云フ風ニ強權發動ノ結果トシテ、甲ハ利益ヲ得、乙ハ損害ヲ被ッタ致シマシタナラバ、何トカ之ヲ調整スルノ方法ハナイノデアリマセウカ、切ニ政府ノ御考慮ヲ煩シタイモノト思フノデアリマス

○國務大臣(八田嘉明君) 只今ノ、一昨午政府ガ造船禁止命令ヲ出シマシタコトニ依ッテ、契約者デアリマス船主ノ被リタル損害ニ付テ政府ハドウ云フヤウニ考ヘテ居ルカト云フ御尋デアリマスガ、一應私ヨリ御答ヲ申上ゲマス、尙私ノ申上ゲルコトハ、多分御尋ノ全部ヲ盡シ得ナイカト存ジマスノデ、更ニ政府委員ヨリノ御答ヲ以テ補足ヲ致シタイト思ヒマス、御了承願ヒマス、船主ガ被ッタ損害ト致シマシテハ、其ノ契約上船價ノ不拂金ト云フコトニナルノデハナイカト思フノデアリマスガ、是ハ造船所トノ間ニ特別ニ契約ガナイ限りハ、年六分ノ利息ヲ附ケテ造船所カラ船主ニ返却セラレタト承知致シテ居リマス、政府ノ造船禁止命令ノ爲ニ船主ガ計畫シテ居ッタ船ヲ所有スルコトガ出來ナカッタト云フコトニ依リマシテ、只今御述べニナリマシタ色々ノ準備ニ掛リマシタ色々ノ費用モアリ、之ガ爲ニ損失ガ起ッタト云フコトモ豫想サレルノデアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ非常ニ是ハムツカシイ問題デアリマシテ、直接國家カラ之ヲ補償スルト云フコトハ出來ナイヤウニ存ズルノデアリマス、唯其ノ事情ハ色々ト御氣ノ毒ニ存ジテ居リマスルノデ、將來新シイ船ヲ讓渡致スニ際シマシテ、十分此ノ點ヲ考慮致シマシテ、政府トシテハ何等カ之ガ措置ノ一部ト致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、尙又造船所ガ禁止命令ニ依ッテ被ッタ損害ガアルノデアリマスガ、之ニ付キマシテハ大藏省トノ關係モアリ、總動員關係法令ニ定ムル所ニ依リマシテ、補償致シタイト考ヘマシテ、先般來其ノ内部ノ交渉ヲ續ケテ居ルヤウナ次第デアリマス、是等ノ點ニ付キマシテハ尙其ノ實狀ヲ政府委員ヨリ詳細ニ御答ヘ申上ゲタイト思ヒマス

○政府委員(岡本忠雄君) 只今造船禁止命令ニ依ッテ生ジマシタ損害ノ補償問題ニ付テ大臣カラ御説明ガアッタノデアリマスルガ、一番問題ニナリマスノハ、造船所ガ禁止命令ニ依ッテ被ッタ損失デアリマスルガ、之ニ付キマシテハ造船許可濟ノモノト、許可申請中ノモノト、更ニ口頭其ノ他從來ノ商慣習ニ依リマシテ造船ヲ指示シタモノト、斯ウ三ツアルノデアリマスガ、其ノ中許可濟ノ禁止ニ付キマシテハ是ハ大體異論ハゴザイマセヌ、後ノ二者ニ付キマシテ只今大藏省等ト具體的ニ色々打合セテ居リマス、是ハ大體濟ミマシテ補償委員會ノ方ニ掛ケテ處理致スコトニナルノデアリマシテ、一日モ早ク此ノ結末ヲ附ケタイト存ジマシテ、大藏省トモ其ノ點ハ意見ハ一致シテ居リマス、其ノ外ニ付キマシテハ、特ニ御説明ヲ加ヘルコトモナイヤウニ存ジマス

○橋本辰二郎君 私ハ第四ノ問題ニ移リマス、政府ハ船舶業者ニ對シ、企業整備統合

ヲ飽ク迄徹底的の遂行スルノ考ガアルカ、政府ハ企業整備法又ハ其ノ外ノ法律ニ準據致シマシテ、企業整備ヲ我が海運業者ニ適用セムト強制ヲナシツ、アル傾向ガアルノデアリマス、是ハ先程政府委員——御答辯ニ依リマスレバ決シテ強要ハシテ居ナイト云フコトデアリマスルガ、事實ニ於キマシテ、民間ニ於キマシテハ強要ヲ受ケテ居ルト感じテ居ルノデアリマスルカラ、私ハ敢テ強要サレテ居ラヌトハ認ムルコトハ出來ナイノデアリマス、抑、本邦ニ於キマスル各種事業中ニハ、或ハ戦時下ニ於キマシテ原料ノ獲得難ニ依リ設備ノ過半ガ遊休ニ屬シテ居ルモノモアリマス、或ハ平和産業デアッテ、戦力増強トハ全ク没交渉ノモノモアリマス、故ニ事業ノ性質ヤ規模ノ大小ニ依リマシテ統合又ハ廢止ヲ命ズルコトハ固ヨリ當然ノ處置デアリマス、併シナガラ船舶ニ至リマシテハ、他ノ商工業トハ全ク其ノ選ヲ異ニ致シテ居ルノデアリマス、船舶ハ銃砲彈藥ト同ジク戦時ニ於テ最モ必須ノ機關デアリマス、今ヤ船舶業者ハ自己ノ所有船ヲ自己ノ自由ニ使用スルモノハ一隻モナイノデアリマス、悉ク舉ゲテ國家管理ノ下ニ運營會ニ提供致シマシテ、所謂一元化ニ政府ノ欲スルガ儘ニ配船、運航セシメテ居ルノデアリス、戦時下ニ於キマシテ國家ノ要請スル所ノモノハ船舶デアリマシテ、船主デハナイノデアリマス、船舶ヲ既ニ一手ニ掌握セル國家ハ船主ノ如何ハ毫モ問フ必要ハナイノデアリマス、唯此ノ船舶ヲ國家ノ欲スルガ儘使用スルヲ以テ足レリトスルノデアリマス、然ルニ物好きニモ船舶所有者ノ統合ヲ強要セムトスルガ如キハ私ノ大イニ怪訝ニ堪ヘザルモノデアリマス、世間ニハ、貸家

ヲ全部政府ガ借上ゲテ、之ヲ任意ニ使用シテ何等ノ不便、何等ノ支障ナキニモ拘ラズ家主ノ合併ヲ強要スルニ等シクシテ、愚ノ骨頂デアルト酷評スル者モアリマス、私ハ此ノ酷評ハ寧ろ適評ナリト云フヲ憚カラヌノデアリマス、實ニ船舶業者ノ統合強要ナルモノハ必要ノ程度ヲ超越セル最モ忌ムベキ干涉デアリマス、政治上ノ要諦ハ民ニ煩瑣ヲ及ボサザルニアリマス、況ヤ舉國一致ヲ最モ必要トスル戦時下ニ於キマシテ、苟モ摩擦ヲ生ズルガ如キ處置ハ大イニ慎マナケレバナラヌト思ヒマス、此ノ船主ノ統合ニ付キマシテモ先程政府ノ御説明モアリマシタガ、私ハ總テ人類ト云フモノハ、雞口トナルモノ牛後トナル勿レ、如何ニ便利デアリ、如何ニ利益ガアルニシテモ、他人ノ後塵ヲ拜スルト云フコトハ好マシカラヌ、小サイナガラモ獨立自主デヤリタイト云フガ是ハ人間ノ普遍的ナ通有性デアリマス、之ヲ強ヒテ統合セシメルト云フガ如キモノハ、是ハ政治的ニ見テ餘リ好マシカラヌモノト思ヒマシテ、此ノ點ニ付キマシテ切ニ政府ノ反省ヲ御願ヒ致シタイト思ヒマス、之ニ對スル御考ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(八田嘉明君) 只今船舶業者ノ企業整備統合ノ政府ノ方針等ニ付キマシテ、或ハ又實情ニ付キマシテ色々御意見ヲ拜聴致シマシタ、御話ノ如ク、總テ行過ギタル整備ト云フコトハ勿論慎マナケレバナラヌコトト存ズルノデアリマス、能ク御意見ノ程ハ拜承致シテ置キマスルガ、此ノ只今問題ノ中心ニナッテ居リマス船舶業者ニ對シマスル企業整備ノ問題ハ、先程政府委員ヨリ説明ノアリマシタル通り、又能ク御承知ノ通り、今日ノ決戦下ニ於キマシテ、

ドウ致シマシテモ船舶保有能力ヲ最モ効果的ニ發揚スルト云フコトト、又其ノ運航能率ヲ向上セシメルト云フ此ノ二大眼目ヲ目標ト致シマシテ、決戦下必須ノ要件ト致シマシテ此ノ整備ヲ進メルコトニ政府ニ於テ決定致シタ次第デアリマス、即チ昨年ノ夏御承知ノ船舶運航體制緊急措置要綱ノ政府決定ニ基イタモノデアリマス、此ノ決定以來當局ノ指導ノ下ニ此ノ企業整備ハ次第ニ進捗致シマシテ、既ニ我が國ノ船主ノ九割以上ハ其ノ整備ヲ完了致シタヤウナ狀況ニアルノデアリマス、斯様ナ狀況ニアリマシテ、尙今日多少殘テ居ルモノデアリマスルガ、總テノ企業ト云フモノハ、只今御話モアリマシタル通り、敢テ此ノ船ノ問題ノミナラズ、總テノ此ノ企業ノ整備統合ト云フコトハ其ノ各ノ立場カラ見マスレバ、相當色々ノ困難ナル事情ヲ察セラレルノデアリマシテ、斯様ナ次第デ、昨年ノ末迄ニ大體ニ於テハ完了致シマシタガ、尙殘タルモノニ付キマシテハ、最近ニ於キマシテ至急之ヲ整備ノ措置ヲ終ルコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、先般來日本海軍協會トモ協議致シマシテ之ニ對スル措置ヲ講ジテ居ルヤウナ次第デアリマス、從ヒマシテ此ノ企業整備ハ先ヅ曩ニ豫定致シマシタル通り進行ヲ了スルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、只今御話ノ中ニアリマシタ點ニ付キマシテハ、私ト致シマシテ能ク拜聴致シテ置ク次第デアリマス

○橋本辰二郎君 私ハ第五ニ於キマシテ、政府ハ日本海運協會ヲ神戸ニ復歸セシメルノ意ナキヤ、人類社會ニハ自カラ其ノ中心點ガ出來ルモノデアリマス、其ノ中心點トナルモノハ政治力ニ依ルモノモアリマス、又ハ人意ニ歸スルモノモアリマスルガ、主トシテ是ハ地理的關係ニ支配セラレルモノガ多イノデアリマス、故ニ社會ノ中央市場若シハ金融市場ヲ一定ノ場所ヨリ他ノ場所ヘ移轉セシムト試ミマシテモ、到底其ノ實現ハ困難デアアルノデアリマス、第一次歐洲戰爭中英國ノ疲弊ニ乗ジテ、世界ノ經濟市場竝ニ金融市場ヲ一時「ロンドン」ヨリ「ニューヨーク」ニ奪ヒタルガ如キ觀モアツタノデアリマス、併シナガラ戰爭ノ終熄ト同時ニ又元ノ如ク「ロンドン」ニ復歸シタノデアリマス、東京ノ繁華ノ中心ハ銀座デアリマス、經濟ノ中心ハ丸ノ内附近デアリマス、之ヲ他ノ場所ヘ移轉セシムト欲スルモ結局非常ナル強壓ヲ加ヘヌ限リハ無効ニ歸スルノデアリマス、大正十二年ノ大震災後ニ於キマシテ金座ナドト稱シテ銀座ノ繁榮ヲ奪ハムト種々策畫ヲシタ者モアリマシタガ、都人士ハ之ニハ一瞥モ與ヘズ、金座ヨリモ却テ附近ノ人形町通ノ方ガ依然トシテ繁榮ヲシテ居ルノデアリマス、日本ノ船舶業者ノ中心點ハ神戸ニアアルノデアリマス、日本ノ船舶業者ハ其ノ本店ヲ阪神地方ニ設置セルモノガ過半ヲ占メテ居リマス、假ニ本店ヲ置カザルモノモ支店、出張所ノ名義ノ下ニ主タル營業ハ神戸ニ於テ經營致シテ居ルノデアリマス、唯東京ニ本店ヲ置クモノハ政府ト密接ノ關係ノアルモノカ、若シクハ何等カノ意圖ノアルモノニ限ラレマス而モ是等ノモノト雖モ他ノ船會社ト同ジク其ノ主タル業務ハ神戸ニ於テ執ッテ居ルノデアリマス、神戸ハ實ニ第一次歐洲戰亂中ニ於キマシテハ世界ノ海運市場ノ中心トナリマシテ、其ノ當時ノ船舶ノ運賃率ト云フモノハ神戸ニ於テ決定セラレル位ノ勢デアッ

タノデアリマス、斯ウ云フ風ニ神戸ハ自カ
ラ我ガ日本ノ海運業ノ中心デアリニモ拘リマセ
ズ、昨年海務院ハ強ヒテ之ヲ東京ニ移轉セ
シメタノデアリマス、是ハ中央集權ノ惡イ
反映デアリマス、元來日本ノ事業界ニ於キ
マシテ政府事業ノ不成績ナルコトハ何人モ
認ムル所デアリマス、又政府ノ保護指導ヲ
受クル事業デ實ハ碌ナモノハナイノデアリ
マス、是ハ當然ノ結果デアリマス、熱意ガ違
ヒマス、責任觀念ガ違ヒマス、日本ノ事業
界ニ於キマシテ世界ノ市場ヲ風靡セシメタ
モノハ紡績業デアリマス、此ノ紡績業ハ毫モ
政府ノ保護指導ヲ受ケタモノデハアリマセ
ヌ、業者ソレ自身ノ力ヲ以テ世界的ニ大發展
ヲシタモノデアリマス、船舶業ニ於キマシ
テモ、亦紡績業ト同ジク、個人ノ創意ト努
力ニ待ツテ今日ノ結果ヲ得タノデアリマス、
是等獨力ヲ以テ大事業ノ基礎ヲ築キ上ゲタ
人々ノ意見ト云フモノハ最モ尊重ニ値スル
モノガアルト思ヒマス、若シモ歷代ノ政府
ガ是等實際ノ經驗ニ富メル船舶業者ノ進言
ヲ能ク採擇致シマシテ、海運ノ擴充ヲ圖ツテ
居リマシタナラバ、平時ニ於キマシテハ國
際貨借上ニ多大ノ貢獻ヲ齎シ、大東亞戰ニ
於キマシテモ今日程船舶ノ窮屈ハ感じナカッ
タト思ヒマシテ、實ニ痛嘆ニ堪ヘヌノデア
リマス、處ガ海務院ハ強ヒテ日本海運協會ヲ
東京ニ移轉セシメマシタガ、事アル毎ニ阪神
間ノ船舶業ニ經驗アル當業者ヲ東京ニ招集
致シマシテ、會議ヲ開イテ居リマス、之ガ
爲ニ當業者モ事業上多大ノ不便ヲ感ズルノ
ミナラズ、交通機關ニ迄少カラズ惡影響ヲ
與ヘテ居ルト思ヒマス、若シモ海運協會ヲ以
前ノ儘神戸ニ置イテ居ツタナラバ、會議開催
ノ必要アル毎ニ、唯一人ノ關係官吏ヲ派遣

スルヲ以テ足レリトスルノデアリマス、神
戸ハ元來ソレ自身ガ本邦ノ船舶業ノ中心點
デアリ、主タル海運業者ノ集團地デアリマス
故ニ日本海運協會ハ神戸ニ復歸セシムルヲ
私ハ適當ト認ムルノデアリマス、大臣ハ鐵
道ノ專門家デアラセラル、時代ノ要求ト
ハ云ヒナガラ旅客ノ往來ヲ制限サレマシテ
國民ノ活動ニ少カラズ阻碍ヲ與ヘテ居リマ
ス、今日ハ人口其ノ他ノ疎開ノ聲モ大變高
イ折柄デアリマスデ、先ヅ手初メニ日本
海運協會ヲ神戸ニ移轉セシメマシテ、交通
難ノ緩和ニ幾分デモ貢獻シテハ如何カト考
ヘマスルガ、大臣ノ御考ハ如何デアリマセ
ウカ

種ノ點ヲ十分ニ考慮研究シ色々意見モアッ
タコトト承知致シテ居リマスルケレドモ、
此ノ海運協會ヲ設立スルニ當リマシテ、日
本船主協會ヲ神戸ヨリ東京ニ移シマシテ、
サウシテ海運協會ヲ設立シテ、之ヲ政府ノ
外郭團體ト致シマシテ、所謂表裏一體ノ活
動ヲ爲サセル必要ガアツタノデアリマス、斯
様ナ全クノ戰時下ニ於ケル其ノ後ノ狀況ニ
依リマシテ、斯カル措置ガ講ゼラレタモノ
ト承知致シテ居ルノデアリマス、而シテソ
レ以來ノ狀況ヲ見マスルト、益當初考ヘタ
ヤウニ、ドウシテモ中央ニ此ノ海運協會ノ
存置ガ非常ニ必要デアルト考ヘルノデアリ
マス、從ヒマシテ、今日之ヲ神戸ニ復歸サ
セルト云フ考ハ持ツテ居ラナイト云フコト
ヲ申上ゲルノデアリマス、尙其ノ他、是ハ
其ノ實際ノ必要カラ當然起ルコトデアリマ
スルガ、多クノ船會社モ亦本店或ハ出張所
ヲ東京ニ移シテ參ツヤウナ事情ニアルコト
モ、御承知ノ通りデアリマス

ノ際大臣カラ御説明ヲ願フコトニ致シマス
○國務大臣(八田嘉明君) 簡易生命保險法
中改正法律案ニ付テ御説明ヲ申上ゲマス、
本案ハ戰時下國民貯蓄ノ增強ヲ圖リマス
共ニ、國民生活ノ安定確保ヲ期シマスル
爲、簡易生命保險ノ被保險者一人ニ付加入
シ得ル保險金最高制限額ヲ二千圓ニ引上ゲ
制度本來ノ機能ヲ益發揮セシムトスルモ
ノデアリマス、御承知ノ如ク、簡易生命保
險ハ大正五年十月一日、國民生活ノ安定ヲ
目途トシテ創始サレタモノデアリマスルガ、
本事業ハ創始以來二十有七年間不斷ノ躍進
ヲ續ケテ參ツタノデアリマス、殊ニ支那事變
勃發以來斯業ノ發展ハ實ニ目覺マシイモノ
ガアリマシテ、時局下極メテ重大ナル役割
ヲ果シテ居ルコトハ既ニ御承知ノ通りデア
リマス、簡易生命保險ノ保險金額ハ、創始
以來四回ニ互引上ニ依リマシテ、現在其
ノ最高制限額ハ千圓ト相成ツテ居リマシテ、
同一ノ被保險者ガ數箇ノ保險契約ヲ爲ス場
合ニ於キマシテモ、右ノ金額ヲ超ユルコト
ヲ得ナイモノトサレテ居ルノデアリマスル
ガ、現下喫緊ノ要務デアリマスル國民貯蓄
ノ增強並ニ國民生活ノ安定確保上更ニ一段
ノ活躍ヲ期セムガ爲ニハ、之ガ最高制限額
ヲ引上グルコトガ最モ適切ト考ヘラレルノ
デアリマス、然ルニ保險金最高制限額ヲ無
條件デ千圓以上ニ引上ゲマスルコトハ、生
命保險會社ニ於テ現ニ實施シテ居リマスル
千圓以上ノ無診査保險ト競合致シマシテ、
其ノ結果民業ニ及ボス影響モ考ヘラレマス
ルノデ、簡易生命保險ニ付キマシテハ、被
保險者一人ニ付加入シ得ル限度ヲ二千圓
ニ引上ゲマスルト同時ニ、一年間ニ加入シ
得ル限度ハ一千圓ヲ超ユルコトヲ得ザルモ

○國務大臣(八田嘉明君) 只今一般的ノ色
色ノ問題ニ付キマシテ、長イ間ノ歴史ヲ尊
重スベキコトニ付テノ御趣旨カラ色々御述
ベニナラレタノデアリマス、其ノ點ハ能ク
拜承致シタ次第デアリマスルガ海運協會ヲ
神戸ヨリ東京ニ移轉シタコトニ付キマシテハ
私カラ申上ゲル迄モナク、我が國ノ海運業
ガ長イ間、専ラ船會社並ニ船主ノ自主的活
動ニ依ツテ、廣ク内外ニ大ナル貢獻ヲサレテ
居ツタノデアリマスルガ、此ノ點ニ付キマシ
テハ、私ヨリ申上ゲル迄モナイ所デアリマ
ス、然ルニ大東亞戰爭ノ開始ト共ニ、所謂
船舶ノ海上輸送ニ關スル限り、國家管理ト
云フ、過去ト全ク違ヒマシタル戰時體制ガ
採ラレタノデアリマス、從ヒマシテ、政府
ニ於テノ各般ノ施策實施ニ伴ヒマシテ、一
言ニシテ申セバ、ソレ等ノ活動ノ中心ガ中央
ニ移ツテ來タト云フコトハ、是ハ明カナル事
實デアラウト思フノデアリマス、從ヒマシ
テ又諸種ノ國策會社、其ノ他荷主ノ關係モ
中央ニ在ルト云フ關係カラ致シマシテ、諸

種ノ點ヲ十分ニ考慮研究シ色々意見モアッ
タコトト承知致シテ居リマスルケレドモ、
此ノ海運協會ヲ設立スルニ當リマシテ、日
本船主協會ヲ神戸ヨリ東京ニ移シマシテ、
サウシテ海運協會ヲ設立シテ、之ヲ政府ノ
外郭團體ト致シマシテ、所謂表裏一體ノ活
動ヲ爲サセル必要ガアツタノデアリマス、斯
様ナ全クノ戰時下ニ於ケル其ノ後ノ狀況ニ
依リマシテ、斯カル措置ガ講ゼラレタモノ
ト承知致シテ居ルノデアリマス、而シテソ
レ以來ノ狀況ヲ見マスルト、益當初考ヘタ
ヤウニ、ドウシテモ中央ニ此ノ海運協會ノ
存置ガ非常ニ必要デアルト考ヘルノデアリ
マス、從ヒマシテ、今日之ヲ神戸ニ復歸サ
セルト云フ考ハ持ツテ居ラナイト云フコト
ヲ申上ゲルノデアリマス、尙其ノ他、是ハ
其ノ實際ノ必要カラ當然起ルコトデアリマ
スルガ、多クノ船會社モ亦本店或ハ出張所
ヲ東京ニ移シテ參ツヤウナ事情ニアルコト
モ、御承知ノ通りデアリマス

○委員長(子爵立花種忠君) 大臣ハ衆議院
ノ方ガアリマスガ、マダ少シオイデニナツテ
モ宜イラシイノデスガ、大臣ニ御質疑ガア
リマスレバ、今ノ内ニ御願ヒ致シマス、併
シ或ハ中途デ彼方ニオイデニナルカモ知レ
マセヌカラ、左様御承知ヲ願ツテ置キマス、
御諮リヲ致シマスガ、マダ御質疑ガアルト
存ジマスケレドモ、丁度大臣オイデノ所デ
アリマスカラ、簡易生命保險法中改正法律
案ノ御説明ヲ願ツタラ如何カト思ヒマスガ、
如何デアリマスカ、宜シウゴザイマスカ

〔贊成ト呼フ者アリ〕 ソレデハ、此

第四部第七類 船舶職員法中改正法律案特別委員會會議事速記録第二號 昭和十九年一月二十四日 貴族院

○委員長(子爵立花種忠君) 大臣ハ衆議院
ノ方ガアリマスガ、マダ少シオイデニナツテ
モ宜イラシイノデスガ、大臣ニ御質疑ガア
リマスレバ、今ノ内ニ御願ヒ致シマス、併
シ或ハ中途デ彼方ニオイデニナルカモ知レ
マセヌカラ、左様御承知ヲ願ツテ置キマス、
御諮リヲ致シマスガ、マダ御質疑ガアルト
存ジマスケレドモ、丁度大臣オイデノ所デ
アリマスカラ、簡易生命保險法中改正法律
案ノ御説明ヲ願ツタラ如何カト思ヒマスガ、
如何デアリマスカ、宜シウゴザイマスカ

○委員長(子爵立花種忠君) 大臣ハ衆議院
ノ方ガアリマスガ、マダ少シオイデニナツテ
モ宜イラシイノデスガ、大臣ニ御質疑ガア
リマスレバ、今ノ内ニ御願ヒ致シマス、併
シ或ハ中途デ彼方ニオイデニナルカモ知レ
マセヌカラ、左様御承知ヲ願ツテ置キマス、
御諮リヲ致シマスガ、マダ御質疑ガアルト
存ジマスケレドモ、丁度大臣オイデノ所デ
アリマスカラ、簡易生命保險法中改正法律
案ノ御説明ヲ願ツタラ如何カト思ヒマスガ、
如何デアリマスカ、宜シウゴザイマスカ

〔贊成ト呼フ者アリ〕 ソレデハ、此

ノト致シマシテ、民間生命保險會社ニ於テモ、從來通り千圓以上ノ無診査保險ヲ營ミ得ルコトトシ、簡易生命保險ト民營保險ト相携ヘテ各、其ノ機能ヲ十分發揮セシムルヤウニ致シテ次第アリマス、何卒御審議ノ上御決定アラムコトヲ切望致ス次第アリマス

○委員長(子爵立花種忠君) 申遅レマシタガ、委員諸君ノ中デ、此ノ兩案ニ付テ何カ參考書デモ御要求ガアリマスナラバ御要求ヲ願ヒタイト思ヒマス、出來ルダケ取計ヒマス、速記ヲ止メテ

(速記中止)

○委員長(子爵立花種忠君) 速記ヲ付ケテ、兩案ニ付テ別ニ御質疑ハアリマセヌデセウカ

(アリマセヌト呼フ者アリ)

○委員長(子爵立花種忠君) アリマセヌケレバ、兩案ヲ一括シテ議題ニ供シマシテ討論ニ入リマス

○橋本辰二郎君 私ハ兩案共ニ贊成ヲ致シマス、就キマシテハ、一昨日以來私ガ政府ニ質問ヲ致シタル問題ノ結ビナリ、又ハ多少之ニ自己ノ意見ヲ附加ヘマシテ、贊成ト共ニ、此ノ機會ニ於キマシテ皆様ノ御了解ノ下ニ發言ヲ致シタイト思ヒマス、新谷政府委員ガイラッシャライノデ、的ノナイノニ矢ヲ放ツヤウデアリマスガ、是ハ御列席ノ政府委員ヨリ御傳ヘヲ願ヒマス、一昨日新谷政府委員ハ、中小船舶業者ノ經營難ハ事實デアルガ、之ヲ認メス、併シ是ハ現在進行ナシツ、アル運航整備ニ依ル統合ニ依ッテ救ハレルト言ハレタノデアリマス、統合ニ依リマシテ經費ノ減ズルト云フモノハ、僅カナ人件費ノ一部ニ過ギナイノ

デアリマス、恰モ是ハ屋上ノ目藥ニ等シキモノデアリマス、此ノ程度ノモノヲ以テ將ニ破綻ニ瀕シテ居リマスル所ノ當業者ノ救済ト云フコトハ思ヒモ寄ラヌコトデアリマス、又新谷政府委員ハ、統合セシムル場合ニ船價ノ安キ方宜イト云フコトヲ言ハレマシタ、是ハ統合スル側ニ於テハ成ルベク安イノガ宜イデセウガ、被統合者ニ取リマシテハ殆ド堪ヘ兼ヌルヤウナ苦痛ト不平ヲ感ズルデアリマセウ、統合ニ依リマシテ自分ノ年來ノ職業ヲ奪ハレルト同時ニ、所有物件ヲ安ク踏ミ倒サレルト云フコトハ、是ハ忍ビ難キコトデアアラウト存ジマス、ソレカラ大臣ハ傭船料ハ投下資本ヲ對象トシテ考慮シタト云フコトヲ答辯セラレマシタガ、是ハ實ニ沙汰ノ限リト思ヒマス、若シ投下資本ヲ目標ト致シマシタルバ、放漫ナル經營ヲ爲シマシテ水膨レヲシタ者ニハ賞與ヲ與ヘ、勤勉努力、眞面目ナル經營ヲ爲シ、以テ資本ヲ償却シ、又ハ所有物件ヲ増加シタ者ハ罰セラレルト云フコトニナル、斯ウ云フ政治ヲヤツテ居ッテハ國ガ亡ビマス、大臣ハ斯ウ云フ御答辯ニナリマシタガ、大臣トシテ單ニ屬僚ノ言ヲ所、又ハ政府ニ媚ビルコトニ汲々トシテ居ル政商連ノ言フコトノミニ耳ヲ藉シテハイケナイノデアリマス、何等政府ノ保護ヲ受ケズ拮据經營、自己ノ力ニ依ッテ地盤ヲ開拓シタ者ノ苦勞ニ富メル所ノ話ヲ最モ尊重シナケレバナライノデアリマス、然ルニ現在ノヤリ方ヲ見マスルト、其ノ反對デハナイノデアリマセウカ、八田大臣ハ我が國ノ鐵道ノ權威デアラセラレマス、ケレドモ海運ハ最近之ヲ傘下ニ收メラレタバカリデアリマシテ、殊ニ現下政務御多端デモアリマスシ、關係方面ガ非常

ニ廣汎ナルガ爲ニ、未ダ海運ニ付テハ十分ニ御研究ニナル違ガナカッタ拜察ヲ致シマス、鐵道ハ固ヨリ我が國交通運輸ノ根幹デアリマス、併シナガラ其ノ輸送力ハ、戰前ニ於キマシテ——「トン」ヲ超エナカッタト思ヒマス、委員長ニ申上ゲテ置キマスガ、數字ヲ出スコトガイケナケレバ、〇〇ト云フコトニ直シテ戴キマス、此ノ程度ノ貨物デアッタナラバ、燃料サヘ供給致シマスレバ、機帆船ダケデモ優ニ輸送ガ出來ルノデアリマス、機帆船ノ外ニハ數億ノ大量輸送力ヲ有スル汽船ノ嚴存スルコトハ、申ス迄モナイコトデアリマス、故ニ輸送問題ヲ考ヘマスル時ハ、先ヅ水運ニ重キヲ置カナケレバナライノデアリマス、大臣ハ元來陸ノ御方デ海ノ人デハナイノデアリマス、謂ハバ樺者ガ俄ニ漁業ヲ兼ネタヤウナモノデアリマス、ソレニ御就任後未ダ日ガ淺イノデアリマス、之ヲ責ムルト云フノハ責ムル側ガ無理ダト思ヒマス、併シナガラ海運界ノ救済ナルモノハ、寸時モ猶豫ヲ許スコトノ出來ナイ問題デアリマス、故ニ私ハ一日ヨリ縷々自分ノ意見ヲ開陳致シタ次第デアリマス、聞ク所ニ依リマスレバ、海事ニ始メテ關係セラレマシタル御役人ハ、一般ノ海運就中商船ノコトヲ吞ミ込マシムルノニハ、一年以上ヲ要シタト云ヒマスルガ、隔絶セル才幹ノ持主デアル大臣ハ、其ノ明敏ヲ以テシマシタルバ、他人ノ一年ヲ要シタルモノモ、只ノ一箇月デ會得セラレルコトヲ疑ハナイノデアリマス、折角御勉強ニナリマシテ、國家ノ爲ニ大足跡ヲ殘サレムコトヲ御願ヒ致シタイト思ヒマス、現在ノ我が國ノ海運界ハ、現行公定傭船料ノ如キ、世界ニ類例ナイ低廉且不適正ナル傭

船料ノ爲ニ、中小船舶業者ハ踵ヲ接シテ倒産ニ瀕シテ居ルコトハ勿論デアリマス、假令大船主ト雖モ斯ウ云フ傭船料ノ下ニ於キマシテハ、遠カラズ崩壊ニ遭遇スルコト、是レ決シテ杞憂デナイト私ハ信ジマス、若シ船舶業者ガ陸續ト致シマシテ破滅ニ瀕シタル場合ハ、政府ハ如何ニ之ニ處セムトスルデアリマセウカ、船舶業ノ國營ト云フコトハ他ノ國デ其ノ例ガアリマス、殷鑑遠カラズ、到底行ハルベキモノデアリマセヌ故ニ能ク實情ヲ調査セラレマシテ、單ニ議論ニノミ耽ラズシテ、眞ニ適正ナル傭船料ノ改正ヲ加ヘラレムコトヲ希望致シマス、全體「ナチ」デアルカ「ソ」聯ノ輸入カハ知リマセヌガ、戰時下ニ於テ船齡ニ依ル遞減制トカ原價計算方式トカ云フノガ間違ッテ居ルノデアリマス、平時ナラバ列國ト競争ノ爲ニ優秀ナル新造船ノ必要ノアルコトハ、固ヨリ論ヲ俟タヌノデアリマスガ、戰時ハ輸送力ガ肝要デアリマス、古船デ運シタ彈丸ト、新シイ船デ運シタ彈丸ガ戰場ニ於テドレダケ效力ニ差異ガアリマスカ、新船ト古船ト區別ヲ爲スノガ抑、時代錯誤デアリマス、戰時ニ於ケル傭船率ナルモノハ宜シク「トン」當リノ賃率ヲ定メテ、之ヲ基準ニ各船ノ積載量ニ應ジテ比例的ニ支拂フガ至當デアリマス、唯新造船ニシテ其ノ船價ノ高イモノニ對シマシテハ他ニ獎勵金トカ、又ハ補助金ヲ與フルト云フ方法ヲ執レバ宜シイノデアリマス、私ハ戰時下ノ財政經濟ニ關シ、又戰後ノ經營ニ關シマシテモ多少ノ意見ヲ有スルモノデアリマスガ、現政府ノ意見トハ相當ノ軒輊ノアルコトハ已ムヲ得マセヌ、殊ニ統制經濟ノ不手際ハ論外デス、今ヤ物資ハ缺乏シ、消費地ニ於テハ特

ニ甚ダシイモノガアリマス、併シナガラ實際ニ物ガ無イカト言ヘバ必ズシモ左様デハナイノデアリマス、有ル所ニハ有リ餘ッテ居ルノデアリマス、是ハ公定價格ト配給機構ガ隘路ニナッテ居ル關係デアリマス、其ノ上ニ縣外移出ヲ禁ジテ居ル結果モアルノデアリマス、即チ生産地デハ物ガ腐敗シテ惜ラ天物ヲ暴殄シテ居ル實況デアリマス、實ニ是ハ惜ムベキコトト思ヒマス、全國七區ノ知事協議會デ「ブロック」打破ガ出來ルト多クノ期待ヲ殘シテ居リマシタガ、是ハモウ裏切ラレマシテ失望致シマシタ、今ヤ國民ノ一部ニハ物々交換ガ盛行ハレテ居リマス、物々交換ノ結果ハ、通貨ノ信用ト、其ノ價值ガ失墜スルノ虞ガ十分ニアルノデアリマス、或人ハ日本ノ札ハ遠カラズ〇〇ニナルノデハナイカトサヘ放言スル者モアリマス、通貨價值ノ暴落ハ今日其ノ徵候ガ嚴然タルモノガアリマス、即チ物價ノ騰貴ト都市ニ於ケル國民ノ生活難ハ其ノ反映デアリマス、通貨價值ノ低下ニ伴ヒマシテ、其ノ對象物ニ對スル對價ハ當然再檢討シナケレバナラスコトハ論ヲ俟タスト思ヒマス、今ヤ斯ノ如キ價值ノ低落セル通貨デアリマス、氣前好ク放出致シマシテ、當業者ヲ満足セシメ、船舶ノ設備ヲ充實ナラシメ、船員ヲ優遇致シマシテ、船舶ノ回轉率ヲ向上セシメ、全機能ヲ發揮シテ、以テ輸送ニ一大貢獻セシムルコトガ現下ノ急務デアルト考ヘルノデアリマス、是ガ所謂政治的措置デアリマス、若シモ備船料ノ改訂ニ依リマシテ、船舶業者ガ經營難ヲ克服致シマシテ利益ヲ擧ゲタト致シマシテモ、其ノ利益ハ課税ニ依リマシテ八、九割ハ國庫ニ回收出來ルモノデアリマス、即チ朝三暮四

デアリマス、取ラムト欲スレバ先ヅ與ヘヨデアリマス、而モ之ニ依リマシテ當業者ヲ感激發奮セシメ、獻身ノ努力ヲ以テ事業ニ邁進セシメマシタナラバ、必ズヤ現時ノ輸送界ニ相當ノ效果ヲ齎スコトヲ疑ヒマセヌ、切ニ政府ノ善處ヲ切望シテ已マザル次第デアリマス、終リニ臨ミマシテ委員諸公ガ私ノ發言ニ對シマシテ御寛容デアリシコトヲ深く感謝ヲ致シマス

○委員長(子爵立花種忠君) 此ノ際御諮リヲ致シマスガ、橋本君ノ御發言中數字ニ互ツタ所ガ一箇所アリマスガ、發言者御自身モ差支ナラバ〇〇ニシテモ宜イト云フコトデアリマスガ、先程ノ數字ハ現ハサナイ方ガ宜イト存ジマスガ、之ヲ速記カラ削除シタイト思ヒマスガ、如何デゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○委員長(子爵立花種忠君) 只今ノ陸ノ運送ノ高ノ數字ハ削除ト致シマス、他ニ御發言ハアリマセヌデセウカ、ナケレバ討論ハ終結致シマシタ、採決ニ入りマス、船舶職員法中改正法律案及簡易生命保險法中改正法律案ハ只今橋本君カラ御贊成ガアリマシタガ、兩案ハ原案通り可決シテ差支ゴザイマセヌデアリマセウカ、御諮リ致シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○委員長(子爵立花種忠君) 御異議ナイモノト認メマシテ、兩案ハ可決スベキモノト議決セラレマシタ、是デ散會致シマス

午後三時十四分散會
出席者左ノ如シ

委員長 子爵立花 種忠君
副委員長 男爵井上 清純君

委員

侯爵黒田 長禮君
子爵京極 高修君
田邊 治通君
大橋 八郎君
男爵北大路信明君
橋本辰二郎君
平沼 亮三君
國務大臣 運輸通信大臣 八田 嘉明君

政府委員 法制局參事官 佐藤 基君
運輸通信省海運總局長官 妹尾 知之君
運輸通信省海運總局總務局長 岡本 忠雄君
運輸通信省海運總局海運局長 新谷寅三郎君
運輸通信省海運總局船舶局長 山縣 昌夫君
運輸通信省海運總局船員局長 石井 敬之君
運輸通信省航空局長 飯野 毅夫君
通信院總裁 小松 茂君
通信院總務局長 小林 武治君
通信院貯金保險局長 岡崎 誠一君

運輸通信省海運總局總務局長 岡本 忠雄君
運輸通信省海運總局海運局長 新谷寅三郎君
運輸通信省海運總局船舶局長 山縣 昌夫君
運輸通信省海運總局船員局長 石井 敬之君
運輸通信省航空局長 飯野 毅夫君
通信院總裁 小松 茂君
通信院總務局長 小林 武治君
通信院貯金保險局長 岡崎 誠一君

昭和十九年一月二十四日印刷

昭和十九年一月二十五日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局